馬印青梅情報 2019年３号

2019年5月17日発行

新元号「令和」の典拠は「万葉集」で、天平２（７３０）年に大宰府の大伴旅人邸で開かれた梅花の宴で読まれた和歌の序文が由来となっております。梅花の歌32首序文から引用されたとあって、梅農家からは喜びの声があがりました。

和歌山県では令和の梅のＰＲに盛り上がっており、令和元年５月13日に藤巌神社例祭が開催され、紀州梅道中を時代行列が梅干しを配りながら神社まで歩き、藤巌神社に梅干しが奉納されました。藤巌神社は梅栽培を奨励した安藤直次公の功績に感謝し明治19年に建てられました。直次公が田辺領を預かった時は痩せ地が多く農民が厳しい暮らしを送っていました。そこで直次公は痩せ地や山の斜面などでの梅の栽培を推奨し税を免除する政策をとったことから、田辺・みなべを中心に梅の栽培が広がりました。

安倍首相も「令和」に込められた意味を「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ」と説明されておりました。過去に直次公と田辺の農民達と心を寄せ合う中で、梅栽培という文化が生まれ育ち、梅酒や梅シロップに繋がってきたと想うと感慨深いものがあります。氷砂糖製造メーカーとしてこの素晴らしい文化を守り、さらに育てていくためにも、皆様とさらに美しく心を寄せ合っていければと思っております。

和歌山の梅の状況（主力の南高梅を中心に）

【着果状況】今年は園地や樹によって着果数が非常に大きくばらついておりますが、総じてみれば平年並み、昨年よりやや少ないという状況です。

【生育状況】梅の実太りには雨がかかせません。３月４月の降水量は昨年の８掛け程度で、４月24日時点の調査では梅の肥大は昨年の75％程度と遅れております。

【出荷見通し】出荷時期は平年並みで古城が５月20日頃～、南高が５月25日頃～、出荷のピークは６月10日頃の見通しとなります。降雨不足から実太りの遅れが懸念されております。今後の気候状況しだいですが、その影響で例年より遅い時期まで青梅の出荷が続く可能性があります。販売店様には出来るだけ長い期間の売場作りをお願い申し上げます。

【写真】２０１９年５月８日撮影（田辺地区）

令和市場

各販売店様では令和に絡めた売場作りをなさっていることかと思います。まさに上でご紹介したように令和と梅の関係を全面に押し出してはいかがでしょう。ＪＡ和歌山様でも右画像のようなＰＯＰも用意されＰＲに力を入れられています。

令和元年に記念の梅酒を漬けるなんて素敵ではないでしょうか。

【#氷砂糖してみた】キャンペーン♪

一昨年よりインスタグラムで中日本氷糖公式アカウントを開設し、季節毎の果実を使ったレシピ配信などを行っております。今シーズンは梅に時期に合わせてプレゼントキャンペーンを実施します。氷砂糖で漬け仕事や料理をした写真をインスタグラムでアップしてもらった中から抽選で10名様に保存瓶をプレゼントするという内容です。若い世代の方が簡単に漬けられることに気付いていただき、漬ける文化を気軽に感じてもらえる機会になればと思っております。

皆様方も是非梅酒・梅シロップを漬けた際にはキャンペーンにご参加いただけますと幸いです。応募方法の詳細は右下のインスタアカウントでご覧ください。

今後とも馬印の氷砂糖を
宜しくお願いします。

中日本氷糖株式会社
URL：http://www.nakahyo.co.jp
インスタグラムアカウント
nakanipponhyoto